

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

1. 活動のテーマ

<テーマ>

食育（給食室）と食農（近隣の農場）活動を連携させた活動の展開

○具体的な活動として、給食室と保育園近くの畑で、「野菜の栽培＝種を蒔いたり苗を植えたりしての農業体験を通して、生命尊重の心を育む実践を展開しています。」収穫した野菜は、給食の食材として活用したり、自宅に野菜のお土産として持ち帰り家族で食べてもらったりしています。また、野菜の親子収穫体験も実施しています。

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

○種を蒔いたり野菜を苗を植える際、園長から丁寧に種や苗の取り扱いをするようにレクチャーすると、気持ちを込め種や野菜の苗を丁寧に扱う姿が育ってきている。これは、物を大切にできれば人も大切にできるという理念から、園児たちに説明し活動をしてもらっています。また、種を蒔いたり苗を移植した後に必ず「おおきなあれ」のおまじないを行い、成長を促しています。○保護者も自宅への野菜のお土産を期待しています。野菜嫌いの園児がこの初期区食農の取り組みで、野菜が好きになったという変容を見せている。また、収穫した野菜に対し、非常に丁寧な取り扱いができるようになった。

2. 活動スケジュール

○季節の野菜を育てるという設定で、毎年3月には次年度年長クラスとなる園児たちにアンケートを実施し、畑の条件を配慮したうえでその要望に沿った野菜をできるだけ育てるようにしている。また、活動スケジュールについては、給食室の栄養士・調理師・食農委員会のメンバーで、園児たちのレディネスや畑の環境を配慮したうえで、年間計画を立て活動を行っている。特に令和6年度のスイカの収穫は多く、乳児クラス、幼児クラス3回のスイカ割りを行うことができた。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

○堆肥の散布 ○畑の耕耘 ○育てる野菜に合わせた畝作り（じゃがいも・サツマイモ・夏野菜や秋冬野菜）と夏野菜や秋冬野菜のマルチシートを張る作業 ○毎週の草取りや草刈り ○追肥の散布 ○収穫用農具の準備 ○夏野菜の収穫の際の蚊取り線香や虫よけスプレーの準備 ○収穫用のかごや家庭に持ち帰り用袋の準備

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

○種や苗からどのような過程で野菜（植物）が育っていくか探求していく。特にじゃがいもの種芋を移植した際、どのように発芽しどのように育っていくかを想像し、これからどのように成長するか「絵」を書いてもらった。園児たちの想像力には驚かされた。一方「園児たちが活動している畑は園舎から近い場所にあるので、散歩がてらに野菜の成長過程を観察することができ、いつ頃に収穫できるか園児たちにも考えさせ、いつごろ収穫体験ができそうか期待をもたせることができた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

活動の様子が分かる写真 2枚以上を貼付してください



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

数年前から給食室と食農（園長が提案）活動を連携した活動を実践してきたが、この活動に予算を等充することが難しく、思うような活動ができなかった事が現状であった。しかし、令和6年度から東京都保育サービス推進事業＝とうきょうすくわくプログラム推進事業に参加させていただき、一昨年度とは随分違うより濃い活動を実践することができたと捉えています。園児たちに少しでも本物の農業体験を安全に体験 させていく状況において、この取り組みに非常深く感謝している。